

不二速報



発行日 2006年12月 4日

第6号 (第2回団体交渉速報 -パート職員3年雇用期限問題について-)

パート職員3年雇用期限は 経営上の判断？ 経験や蓄積より新しい知識や技術を取り入れるために3年？

11/20 に浜松にて第2回団体交渉が行われました。

組合が再三要求している「法人化後採用パート職員の雇用継続」の要求に対して、大学側は「経営上の判断」を繰り返すばかりで、出席された職員のみなさんからの『現場の生の声』にも、耳を貸そうとしませんでした。

大学は、この「経営側の判断」と「現場の生の声」との大きな隔たりを、自ら埋めていこうという努力を頑なに拒否し続けました。

以下、団体交渉のやり取りです（詳細は不二速報次号）。

.....

渡辺理事：法人化後採用のパート職員は、4月以降継続しない。それは労働条件通知書にも明記している。

組合：大学の社会的責任や昨今の社会情勢などを見ても、それでいいと判断したのか。

渡辺：社会的責任などについては議論していない。

組合：3年で退職したあとは補充するのか。

渡辺：基本的には補充する。

組合：3年で期限を決めた理由は？

渡辺：経営上の判断。

組合：同じ仕事をしているのに、なぜ法人化前と後で給与も待遇も違うのか。

渡辺：すべて経営上の判断でしたことだ。

組合：3年で替えると活性化するというが、現場ではそのメリットを言う人はいない。逆に3年間の蓄積が大切だという人ばかりだと思うが。

渡辺：知識や技術は日々進化しているから、そういう知識を取り入れるために3年という方針とした。

組合：現場としては、大学側のその判断が間違っていると言わざるを得ない。890円の人を辞めさせて、新たに850円の人を雇ってどれくらいの差が出るのか。

渡辺：そもそも正規職員とパート職員が同じ仕事をするのがおかしい。

佐藤理事：基本方針は変わらない。

組合：経営的に継続雇用ということを考えてみてはどうか。

佐藤：財政的な問題だけではない。経営全体を考えて、この方針を決めた。

組合：経営的判断というのなら、もう少し詳しく説明して欲しい。

組合：経営側と現場では意見の違いがある。もっと現場の意見を聞くつもりはあるのか。

佐藤：今年は方針は変わらないし、検討するとか再検討するとかは言えないが、情報や状況を見てみたいとは思う。

組合：今年初めて生じる新しい問題である。それぞれの大学が新たに取り組んでいる。これは引き続き団体交渉などで協議していきたい。

.....

組合では、大学当局に対して、職場の実態(雇用継続の要請)と非常勤職員の希望(雇用継続意思)を反映した形で、この問題に対応することを求めます。この要求実現にむけて、署名活動に取り組みます。静岡大学全教職員の署名をお願い致します。

緊急の署名活動にご協力下さい！

